



校章

この校章は、本校の児童、保護者、学校関係者、地域の方々からいただいた多くの作品、情報をもとに校章制定委員会が中心となって製作しました。七国の生活で実感する緑（山）、空、太陽、花、動物といった豊かな自然を題材に、新しい時代の子供たちにマッチするエンブレム風校章の中に集約するというコンセプトで、人、学校、町、自然、さらに未来に繋がる大切な「和」を表せるようにと図案化しました。

歴代校長

初代	二田 孝
第二代	吉村 潔
第三代	宇都宮 聡
第四代	清水 俊幸
第五代	鈴木 淳
第六代	小林 佳世
第七代	長田 猛
第八代	市川 利幸

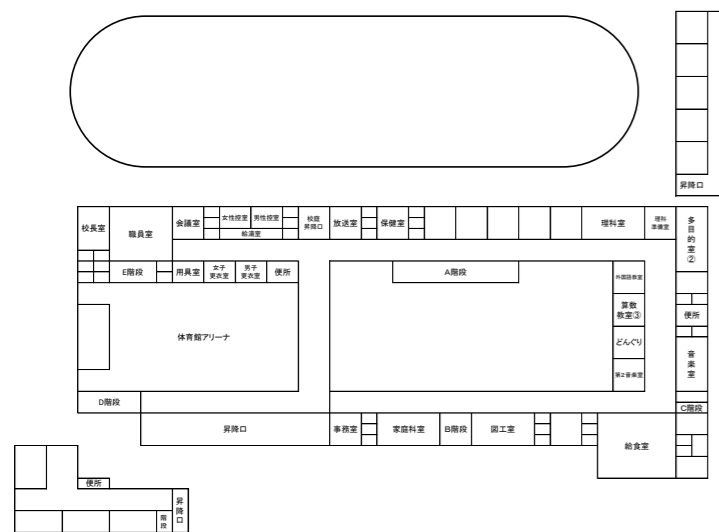
児童数（令和8年4月7日現在）

学年等	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	ひばり	合計
人数	85(2)	100(3)	128(6)	129(7)	134(4)	158(0)	22	734

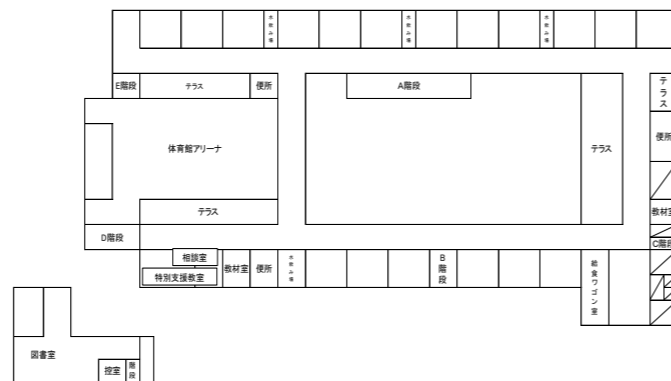
() は内数で、ひばり学級の児童の人数です。

学校配置図

教室配置図(1階)



教室配置図(2階)



学校案内図



八王子市立七国小学校 校歌 石井 亨 作詞・作曲

一 広い台地に 輝く風
 歴史と共に生きる ここは七国
 みんなで 手をつなぎ 花の道で歌えば
 ほら 心と心が つながるよ
 大きな夢を育てよう 七国小学校

二 広い台地に 輝く空
 自然と共に生きる ここは七国
 みんなで 手をつなぎ 草の道を走れば
 ほら 力と力が はじけるよ
 大きな愛を育てよう 七国小学校

遠く望めば 緑の山が
 生きている喜び 教えてくれる
 未来にはばたけ 七国小学校



NANAKUNI

令和8年度
学校案内



『未来に挑戦する学校』
 〈教育目標〉 自分を伸ばします
 ○進んで学びます ○心をみがきます ○体をきたえます

令和8年度東京都「デジタルを活用したこれからの学び」推進校
 令和8年度八王子市「教育課題研究推進校（教育DX）」

七国の豊かな自然、温かな地域で自分を伸ばす

八王子市立七国小学校

<https://hachioji-school.ed.jp/nnkne/>
 〒192-0919 東京都八王子市七国 5-27-1
 電話 042(635)2100 FAX042(635)2158

令和8年度 八王子市立七国小学校 学校経営計画(概要版)

開校24年



<めざす学校> 『未来に挑戦する日本一優しい学校』を共通目標に、学校・家庭・地域が協働することにより

- ① 学びの主体である子ども「一人ひとりの成長にチームで伴走」できる学校
- ② 生きた学びを通して、主体的・協働的に「次代に挑戦できる力」を身に付ける学校
- ③ 学校全体で「心理的安全性」を担保し、「優しさ」や「あたたかさ」に包まれた学校
- ④ 生きる上で必要となる人間性や社会性を身に付ける学校
- ⑤ ねばり強くやりとげられる健康・体力を身に付ける学校
- ⑥ 七国地区学園都市構想の推進から、縦（学びの連続性）と横（地域協働）の仕組みを最大限に活かし、子どもの育成を長期的・包括的に図る学校
- ⑦ 教育課題に常に正対し、子ども・教職員が Try&Error による「より良い学校づくりにチームで挑戦」できる学校
- ⑧ 時代の変化に向き合うとともに、「教育の本質」を追い求める学校
- ⑨ 学校を核として、全員（子ども、教職員、保護者、地域全体）が成長できる学校

<八王子市教育委員会教育目標>
あふれる元気 かがやく心 仲間とともに はばたけ未来へ

学びを通じてすべての人が自分の「みち」を見出し
一人ひとりが望む未来に挑戦する力を育む
はちおうじの教育

「ビジョンはちおうじの教育」
第4次教育振興基本計画基本理念より

<七国小学校教育目標>

自分を伸ばします ○すすんで学びます
◎心をみがきます
○体をきたえます

『未来に挑戦する 日本一優しい学校』

☆自己発揮・自己実現しながら「すすんで学ぶ子」を育成するため、主体的・対話的な学びを重視する
☆学校生活や社会生活を創りながら「心をみがく子」を育成するため、基本的な社会性を見つけ「日本一優しい学校」づくりに向けた児童の主体的な取り組みを推進する
☆「体をきたえる子」を育成するため、めあてをもって努力し、協力して解決や達成をめざす態度と心身の健康づくりを推進する。

<令和8年度の教育活動の目標と方策>

学校経営の基本理念

急速かつ劇的に変化する次代において、主体的・協働的・創造的に「よりよく課題を解決し、行動・改善する資質・能力」や、多面的・多角的視点から「持続発展可能な社会づくり」に貢献する力を身に付けることが学校教育の喫緊の課題である。そして、学びは実生活や実社会、子どもたちの未来に生きるものでなくてはならない。
本校、家庭、地域社会が「未来への挑戦」を共通目標とし、長期的な視点で社会に開かれた教育課程を編成・実施・改善することで、知・徳・体をバランスよく育み、時代の変化に対して折れることのない「幹」の育成と、しなやかな「個性の伸長」に重点をおいた「人間教育」を推進する。

学校教育目標を達成するための中期的な目標

- ① 確かな学力の育成 ～すすんで学びます～
学びあい、高めあうことができる学級集団づくりと合わせ、学びにおける「Try & Error」を保障する中で、実生活・実社会における課題と関連付けて学び。児童が主体的に概念や仕組みに気づき、課題解決に生かせる学習過程を推進する。【自己発揮・自己実現】
- ② 豊かな心の育成 ～心をみがきます～
地域・保護者と共に歩む常に開かれた学校(コミュニティスクール)として、「心理的安全性の担保」と「人間理解に基づく組織的指導・支援」の徹底。「いじめの対応は第一優先」とし、迅速かつ即日解決を目指すとともに、いじめの芽が発生しにくい環境づくりに取り組む。生きる上で必要となる人間性や社会性を身に付け、「自らの生き方を考え行動する力」の育成を図る。【日本一優しい学校づくり】
- ③ 健康・体力の育成 ～体をきたえます～
望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育、食育の充実を家庭と連携して図る。また、「七国小学校 体力向上ハンドブック」の活用とともに、運動の日常化と健康づくりについて考え行動する力を育て、目標達成に向けてチャレンジする力を養う。【健康的な生活・運動の習慣化】
- ④ 地域力を生かした教育活動の推進 ～七国学園都市構想の推進～
豊かな七国地区の地域力(保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・企業)の集合体である「街」の特性を見つめなおし、最大限に生かした学園都市構想の推進。【キャリア・未来デザインの推進、小中一貫教育の更なる推進】

○確かな学力の育成

<自己発揮・自己実現>

- ◇東京都「デジタルを活用したこれからの学び」(2年目)及び八王子市教育課題研究推進校「教育DX」(1年目)への挑戦。
- ◇「個別最適な学び」の推進と「学び方を身に付ける学習」の開発
- ◇学習の個性化に対応した学びの推進
- ◇「実生活、実社会に生きる学び」の推進
- ◇「学び合い、高め合う学級集団」づくり
- ◇学びにおける Try&Error の保障
- ◇地域環境資源を最大限活かした「探究的な学び」の推進
- ◇小学校9年間を見通した「確かな学力」の育成
- ◇ICT の効果的活用

○地域力を生かした教育活動の推進

<小中一貫教育、キャリア・未来デザインの推進>
<地域力をいかした 活動の推進>

- ◇「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進と主体的な街づくりへの参画
- ◇地域教育資源の最大活用による学校教育力の向上
- ◇小中一貫教育の推進
- ◇「七国小中心れあいタイム」の充実
- ◇「八王子未来デザイン2040」の活用と合わせた「保護者・地域協働型キャリア教育」の展開
- ◇学校教育支援活動の充実

○豊かな心の育成

<「日本一優しい学校」づくり>

- ◇子どもと教職員の「心理的安全性」の担保。
- ◇人間理解に基づく組織的指導・支援の徹底
- ◇全教育活動を通じた「心の育成」
- ◇いじめ防止の徹底といじめの芽が発生しにくい学校づくり
- ◇「子どもが主役」の学校
- ◇地域で安心して成長できる学校生活、社会生活づくり
- ◇「自らの生き方を考え行動する力」の育成と「心を動かす体験」の重視
- ◇リーダーシップ・メンバーシップの育成と交流および共同学習の推進
- ◇郷土愛の醸成を図る

○健康・体力の育成

<健康的な生活・運動の習慣化>

- ◇家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育及び食育の充実
- ◇体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取り組みの充実
- ◇けがの未然・再発予防や、けがをしにくい体づくりと感染症の予防
- ◇「ビジョントレーニング」と「体感トレーニング」の導入

義務教育9年間で育てたい児童・生徒像

子どもが主役の学校

学校における学びの主役として、子どもの Try&Error の機会を保障することで、

- ・子ども自身が学び方を獲得し、
- ・より良い人間関係を形成し、
- ・より良い学校づくりに参画し、
- ・自ら課題を発見・解決し、
- ・自らの将来を考え決定できる児童を育成する。

人間理解に基づく組織的支援

子どもの主体的な学びの支援者として、教職員が「人間理解に基づく組織的支援」を推進するために、

- ・授業で勝負できるよう授業力を絶えず高め、
- ・一人ひとりに愛情を存分に注ぎ子どもとともに歩み、
- ・子どもたちが安心して社会自立できるよう、必要な資質・経験を身に付け、
- ・目標に向かって「チーム」で協働し、
- ・教師自身が「Try&Error」を恐れず、子どもたちにも「Try&Error」による学びを保障し、
- ・子どもの成長に向け保護者、地域と「協働」する。